



神経内科って？

脳神経の内科と外科のお話

2003年4月から第10病棟で脳神経外科医と神経内科医が共同で診療を始めました。脳神経センターと呼んでいます。意外と知られていませんが、「脳神経外科」と「神経内科」の対象とする疾患の多くは同一です。例えば、大腸ガンが検査で見つかった時に、内科医が内視鏡で取ってしまう場合もあれば、外科で手術する場合がありますね。脳神経外科と神経内科の関係もそっくりで、脳梗塞の治療を両科が共同で行い、原因が首の血管が狭いためだと分かれば脳神経外科医が手術（内頸動脈血栓内膜剥離術）し、脳の中の太い血管の詰まりがあれば、薬で溶かす事もあるのです。パーキンソン病も内服治療は神経内科が行い、手術（深部脳刺激術）を脳神経外科が行います。両科が共同で一人一人の患者さまを診る事で、よりきめ細やかで、より良い治療が可能となりました。センターではナース、リハビリスタッフも一丸となって頑張っています。



脳神経センター神経内科医師
齊藤 正樹

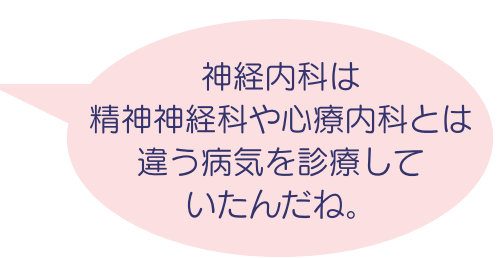
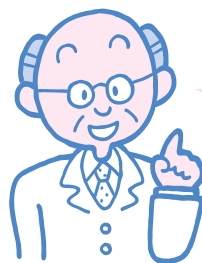
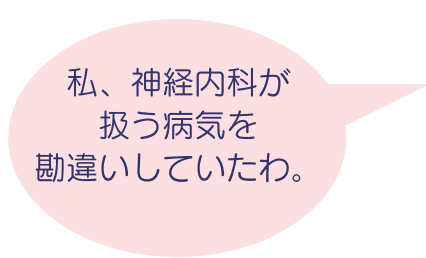
また、筋炎や筋痛症、筋ジストロフィーといった筋肉の病気を扱う「筋肉の内科」であるのも「神経内科」の特徴です。リウマチ、膠原病に伴う神経症状や甲状腺疾患、糖尿病などの内科疾患に伴う神経症状は内科と連携を取り診療します。

一方で、よく間違えられますが、神経科、精神科、心療内科は心や気分の変調や精神の病気を主な対象とするため脳神経センターとは違う科です。更年期障害と呼ばれる体の変調や自律神経失調症と呼ばれる、ほてり、冷えなどの症状は年齢やホルモンなど女性特有の問題が背景にある事が多く脳神経センターはその専門ではありません。

神経内科の診察は長く、問診も多く、びっくりする方が多いと思います。「薬の手帳」や「紹介状」は可能な限り持参して下さい。複数の科を受診している方は、同一検査や採血、処方防止のためにお知らせ下さい。例えば、慢性的に経過する手足のしびれはその原因のほとんどが首や腰の骨の変性という整形外科で扱う事の多いものです。また、脳神経外科で何となくと言われて、神経内科で病気が見つかることは一般にまれです。逆もしかりです。前に受診した事がわからなければ何度も腰や頭の写真を撮ってしまうでしょうけど、これでは患者さまの時間とお金ももったいないですね。

検査はMRI、CT、脳波、脳血流SPECT、超音波検査、採血、腰椎穿刺、レントゲン写真、など脳神経外科と同じです。神経伝導速度検査（手や足に電気で刺激を与え神経の病気の有無を調べる。）や誘発脳波、針筋電図（注射針より細い針を手足の筋肉に刺して筋肉の病気の有無を検査します。）などもあります。

脳神経センター外来で診療する疾患	
脳、脊髄の病気	脳卒中、脳性麻痺、脳炎、てんかん、脳腫瘍、パーキンソン病、脊髄小脳変性症
神経内科外来で診療する事が多い疾患	
末梢神経の病気	ニューロパチー、手根管症候群
筋肉の病気	筋炎、筋痛症、筋ジストロフィー、重症筋無力症





シリーズ部署紹介

循環器科

循環器科は高血圧と心臓病を専門としています。現在2100人の通院患者さまのうち1300人が高血圧患者さまです。血圧は140/90mmHg未満にしておくことが必要です。同時に禁煙や塩分制限、運動、減量も大切で患者さまの状態に合わせて指導を行っています。

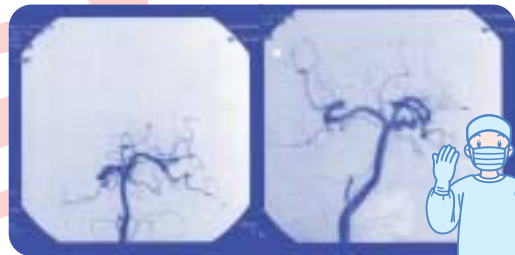
また心筋梗塞、不整脈、心不全ペースメーカー治療などの心臓病診療の面では空知管内で最多の診療実績を持ちます。風船治療、ステント治療などの冠動脈形成術の治療実績は1000件を越えました。診療圏は周辺5市5町に加え北は深川市、南は美唄市から患者さまがいらっしゃいます。今後も地域の信頼に応える医療を行っていききたいと思います。



脳神経センター

脳神経センターは脳神経疾患を専門的に診断治療する部門です。脳神経外科専門医と神経内科専門医で構成され、種々の脳神経疾患を脳神経外科と神経内科が協力し成果を挙げています。脳神経センターでは年間約100例の脳神経手術と約10例の脳血管内手術があります。

内容は脳動脈瘤、脳梗塞、脳出血、頭部外傷、脳腫瘍、脊椎疾患等です。最近手術の際、髪の毛を切らない無剃毛手術を行って(特殊な手術と緊急手術以外)患者さまに喜ばれています。



医師スタッフ

高橋 明(脳神経外科専門医、脳卒中専門医、脳血、管内手術専門医受験中)

米増保之(脳神経外科専門医、脳血管内手術専門医受験中)

齊藤正樹(神経内科専門医、日本内科学会認定医)

臨床検査科

皆さま方が健康を気遣って受けられる心電図や超音波検査など、また血液や尿検査などを私たち臨床検査技師が行っています。

このような検査から、体の中でおきているさまざまな現象を、検査データという情報として提供しています。

採取された血液などから、肝臓とか腎臓の機能などを調べて数値化しています。血液だけでも1000種類を超える検査項目があるんですよ。

病理検査では内視鏡や手術で採取された体の一部を細胞レベルで検査して、病変の有無や広がり専門の認定病理医が診断しています。

生理検査では様々な電子機器を体にあてて、その機能や状態を捕らえています。他にも輸血検査、細菌検査などを実施しています。



第3病棟

整形外科の病棟です。スタッフは医師4名・看護師18名・看護助手2名で構成されています。

入院患者さまの主な疾患は骨折・腰部脊柱管狭窄症・腰椎椎間板ヘルニア・変形性膝関節症等で、手術による治療が大半を占めています。特に骨折による臨時手術が多くあわただしい部分もありますが、毎日の看護では患者さまの機能障害の筋力低下などを最小限に食い止め、QOL(※)を高める援助を大切にしています。また責任と親しみのある看護を目指し、廊下には「スタッフ紹介」として全スタッフの写真を掲示しています。ぜひご覧下さい。

※ QOL 医学的用語で「生活の質」という意味

